

献 辞

滋賀大学長の成瀬龍夫先生は平成22年3月31日をもって任期を終えられ、退職されることになりました。

成瀬先生は、昭和42年3月に大阪外国語大学中国語科を卒業された後、同43年4月京都大学大学院経済学研究科修士課程（理論経済学・経済史学専攻）に進学、昭和45年3月に同修士課程を修了、さらに、同年4月に同博士課程（理論経済学・経済史学専攻）に進学、昭和48年3月に同博士課程を学修退学されました。平成元年に京都大学より経済学博士の学位を授与されました。

昭和48年4月に京都府立大学女子短期大学部講師に就任され、同51年5月に助教授に昇任されました。その後、昭和56年4月に滋賀大学経済学部助教授に着任され、同63年12月に教授に昇任されました。爾来23年間、滋賀大学経済学部と経済学研究科における教育と研究に尽力されました。そして、平成16年7月に、滋賀大学長に就任され、現在に至っています。

先生の研究は、社会政策の諸課題についての調査研究を基本テーマとするものでした。個別的内容としては、現代の労働・生活過程、福祉国家と社会保障改革、高齢化社会と国民負担、地域問題などに関する研究に及んでいますが、その成果は、業績目録における著書、訳書、そして論文群に示されています。

著書『生活様式の経済理論—現代資本主義の生産・労働・生活過程分析—』は、現代社会における国民生活を生活様式という概念を手がかりとして、多方面から総合的に把握し、生活過程の変化を規定する要因と将来の発展方向をあわせて解明したものでした。従来、生産管理論、労働過程論、都市社会学、地域社会学、家族社会学、マーケティング論などで個別に論じられていた生活様式論を経済学の視角から再構成し独自の理論展開を行ったことが高く評価されました。この著書により、経済学博士の学位（京都大学）を取得されました。

著書『くらしの公共性と地方自治』と『国民負担のはなし』は、地域問題や地方自治、そして高齢化社会と国民負担などについて論じたものです。

著書『総説現代社会政策』は長年の研究実績と教育経験を踏まえて社会政策の授業教科書として執筆されました。

さて、教育の面では、学部で、「社会政策Ⅰ、Ⅱ」、「専門演習」などを担当され、また、大学院研究科では、「社会政策特講」、「演習」などを担当されました。そして、ゼミ活動を中心に、学生を熱心に指導されました。

学内行政については、先生は学生部長、評議員、経済学部長の要職を歴任され、そして現在、滋賀大学長の重職を務められています。経済学部においては、学部改革の中心的役割を担われ、6学科構成という国立大学法人の中で最大規模という経済学部の現在の姿を作り出すことに大きな貢献をされたと言って過言ではないでしょう。学部を離れて、学長に就任されてからは、法人化後の難しい大学運営の重責を担われました。財政問題をはじめとして様々な課題の解決に取り組んで、第1期における中期目標計画の順調な達成を導かれたことは、先生の大きな功績と申せましょう。

社会活動としては、社会保障や地域問題などに関する講演活動に、また、滋賀県職業能力開発審議会、滋賀県公害対策審議会、彦根市男女共同参加型社会づくり懇話会、彦根市高齢者保健福祉協議会などの委員として活躍されました。そして、学長になられてからは、まさに「大学の顔」として様々なところで、社会への情報発信を行い、また、地域社会への貢献を果たされました。

長い間、滋賀大学と経済学部の発展に尽力されてきた先生が本学を去られることは大変寂しいことでもあります。

滋賀大学経済学会は、先生の多年にわたるご功労に対する敬意と感謝の気持ちを表すべく、『彦根論叢』の本号を先生と親交のある方々の論文によって編集いたしました。ご退職の記念として、謹んで先生に献呈させていただきます。

先生におかれましては、今後ともますますご健勝にて過ごされますように心よりお祈り申し上げます。

平成22年1月

滋賀大学経済学会長 小西中和